令和６年度　北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

1　報　告　地　区：オホーツク地区

2　事例報告学校名：訓子府町立訓子府小学校

3　報告者職・氏名：校長　加　藤　弘　一

4　キ　ー　ワ　ー　ド：特色ある学校経営･･･地域連携、幼小中高連携

1　はじめに

本校のある訓子府町は人口約4,500人の農業や酪農を基幹産業とする安定した豊かな農村地帯である。本校は14学級、児童数204名であり、町内の学校は高等学校１校、中学校１校、小学校が本校を含めて２校となっている。

本校は地域の開拓以来、設置された学校であり町の歴史と歩みを共にしてきた。校地内には開拓期より残るハルニレの巨木が多くあるばかりではなく、隣接する公園には四季折々の野鳥が姿をみせており豊かな自然環境の中で子どもたちは学んでいる。

2　ふるさと教育「くんねっぷ学」の推進～愛着をもってふるさとを思い、未来を担う子を育てる

これまで、各小中学校に設置されていた学校評議員会から、町のこども園、訓子府小学校、居武士小学校、訓子府中学校、訓子府高等学校を加え、町全体の組織「学校運営協議会」が令和元年、新たに設置された。本町の学校運営協議会の特徴は基本的な機能である「学校の基本方針の承認」「学校運営への意見具申」「評価及び情報提供」に加え、「地域の学校協働活動の推進」を取り入れていることである。

この地域の学校協働活動の大きな柱として進めているのが、ふるさと教育「くんねっぷ学」である。多様な体験活動を通して、町の素晴らしさを知り、愛着をもってふるさとを思い、未来を担う子どもを育むことを目的として、こども園から高等学校まで系統的に学習を進めている。

これ以前は町の社会教育課が学社連携の一環として学校支援地域本部事業スクールサポーター制度を展開し人材派遣による学校の教育活動のバックアップを行ってきたが、その機能をＣＳコーディネーターが引継ぎ、これまでの地域人材の活用に加え登録をいただいた23の団体・企業と「くんねっぷ学」を進めている。

この「くんねっぷ学」は①「訓子府の農業を知ろう」②「地域を知ろう」③「歴史・文化、公共施設を知ろう」④「芸術を知ろう」という四つの分野で構成されており、それぞれの学校でその領域で系統的に学んでいる。

(1)　「訓子府の農業を知ろう」

こども園では野菜や花の栽培、調理体験、地元養蜂場との交流を、小学生は地元にあるトウモロコシを加工する企業（協賛企業）との連携により専門家の指導の下、トウモロコシ栽培を学び、工場見学も受け入れていただいている。他にも協賛団体の指導のもと米作りも体験している。

農家の方と地元産食材でカレー作り

協賛企業の指導によるトウモロコシ栽培

中学校と高等学校は学びを生かした協働での農作業を、高等学校は修学旅行で地元産農作物のＰＲを行っている。

(2)　「地域を知ろう」

こども園ではグループホームとの交流や商工会青年部とともに行う餅つき会、お寺の訪問等を開催している。小学校では夏に町で開催される「ふるさとまつり」への参画（あんどん行列への参加）、冬の「さむさむまつり」では地域の方の指導を仰ぎながら雪像作りと、地域とともに活動する機会を得ている。地域の自然を知る川あそびや栗拾いも定着している。中学校は職場体験学習も協賛企業により円滑に進んでいる。

ふるさと祭り「あんどん行列」への参加

(3)　「歴史・文化、公共施設を知ろう」

こども園では小中高等学校と交流学習を進め、さらに消防署と連携した幼年消防クラブの活動も活発である。小中高等学校では交通安全学習や図書館と連携した読書活動の推進、町内各施設への見学、防災教育の推進などＣＳコーディネーターにより様々な学びを体験的に深めている。

また、新しく転入した教職員を対象に訓子府町の施設等を巡る「くんねっぷ学バスツアー」も実施し、授業に生かせる地域を観る眼も育てている。

「1日防災学校」の様子

(4)　「芸術を知ろう」

「アートなまちプロジェクト」と題して大学や訓子府高校美術部、町社会教育と連携しながらこども園から高等学校まで様々な取組を進めている。一例としてスクールバスのバス停留所の建物の外壁に思い思いの絵を描く「バス停アート」や「対話型作品鑑賞会」などを開催してきた。

3　おわりに

この学びの中で大切にしている多様な体験活動は、子どもたちに新たな視点や価値観を培い将来社会で活躍する基盤を築くのに役立っている。この力が将来予測不可能な困難な時代を生きるために子どもたちに必要な資質能力であるということを、地域・学校で共有していることもこの取組の強みである。「まちづくりは人づくり」という学校運営協議会に参加する地域の方の強い思いが、この教育活動を動かし支えている。学校と地域がベクトルを揃え、共に子どもたちのために汗を流すことで「ふるさとを思い、未来を担う子どもを育む」という願いは、確実に子どもたちに引き継がれていくと感じている。

地元協賛団体による米の脱穀体験

豊かな自然を体感する川での生き物探し